

# 第16回「議員と語りかい」報告書

環境福祉常任委員会 (No.1)

開催日	平成27年9月18日(金) 午前10時00分～午前11時40分		
開催場所	議会棟 第1委員会室		
団体名	霧島市母子寡婦福祉会	参加人数	4人 (男0人 女4人)
出席議員	時任 英寛、 宮本 明彦、 宮内 博、 蔵原 勇、 今吉 歳晴 植山 利博、 中村 満雄、 徳田 修和		
役割分担	委員長(時任 英寛) 副委員長(宮本 明彦) 記録係(徳田 修和)		
テーマ及び具体的な内容	力を合わせて明るく生きていくために		
感想	現状での取組を把握するいい機会となった。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

発足から60周年を迎えるが、年々会員が減ってきている。会を存続させるための取り組みに追われている。ちょっとした会が開ける場所がほしい。

◇取組内容はどんなものか。移住された後パートナーを失ってしまった方などもいるが、どう考えているのか。

◆そういった方への声掛けもしていきたいが、個人情報の取り扱いが厳しいので把握できない。近年では離婚される方も多いので声掛けをしているが、親と同居しているケースも多く資格が満たされないことが多い。男性でも入会できるので是非入ってほしい。また、生活支援として資金貸付の制度もあり、本当ならば勧めていかなければならないが、貸付金の回収事務など、こちらがすべての責任を負わなければならないので、現在は行っていない。

◇福山、溝辺地区には会員はいないのか。

◆前会長が退任されてから後任が見つからず支部が運営できない現状にある。

◇公共施設などに設置してある自動販売機の手数料が活動資金になっているのか。

◆会費は集めているが、自動販売機の売り上げは運営資金の大きな部分となっている。

◇母子家庭世帯との連携や県からの資金貸付がうまく運営できれば、効果的なのではない

か。

◆そのように思うが、責任の重さから難しく感じている。

◇貸付は返済の回収の事務責任だけで事務手数料などはもらっていないのか。

◆もらっていない。

◇県と協議を行ったことはないか。

◆貸付事業の推進はいわれるが、報酬に関しては話したことがない。

◇事務手数料に関しては、県と協議することをお勧めする。

◇社会福祉協議会が窓口になった資金援助制度があるが、多くの方はそちらを利用しているのではないか。

◆そうだと思う。自分たちもそちらを勧めている現状である。

◇市外での研修も行っているようだが、旅費はどうなっているのか。

◆年間3台バスを利用させていただいているが、県の運動会に参加する際、人数の多い国分隼人で2台利用するので、実質1台が市外の研修で利用できる。県外の研修については自費であるためなかなか参加できない。県からいくらか助成があればうれしいのだが。

◆牧園地区は地区内の病院や公共施設の清掃や慰問活動。国分地区は子育て支援、慰問活動、下井海岸等の清掃活動。隼人地区は在宅の見守り、慰問活動を年に7～8回。霧島地区は活動したいが、事務に追われていてなかなかできていない状況である。

◇ちょっとした会ができる場所があればありがたいとも聞いているが現状はどうしているのか。

◆全体の総会や国分地区、霧島地区は福祉センターを利用している。隼人地区は隼人庁舎を利用している。ただ牧園地区は牧園校区に公民館もなく、施設としては活性化センターがあるのだが、1か月前には予約しなければならないので簡単な会議でさえ行えない。また、会員のほとんどが働いているので夜の会合になるのだが、活性化センターは21時までしか利用できず、他の公共施設も夜は使えないので困っている。

◇総会資料の作成など、市の子育て支援課に協力を得ているようだが、会員を増やす取り組みでは協力を得ているのか。

◆母子会だよりを子育て支援課に置いていただいている。

◇市の福祉事業の一翼を担うのも方法の一つであると思う。現在行っているボランティア活動などあれば紹介してほしい。